

# SGU 四国ゴルフ連盟会報

No.79

発行/四国ゴルフ連盟

松山市福音寺町55-1

〒790-0921

TEL 089-990-3260

FAX 089-990-3261

## 第27回四国ミッドシニアゴルフ選手権競技

### 城戸弘行選手(サンセットヒルズC)が初優勝

新居浜カントリー倶楽部〈9/2・3〉

第27回四国ミッドシニアゴルフ選手権競技が9月2・3日に新居浜カントリー倶楽部において開催されました。昨年までは2日間競技で実施していましたが、今年は新型コロナウイルス感染症予防のため1日競技、スタート時間を9時とするなどの対策を講じながら、65歳以上のミッドシニア105名が参加し開催されました。

城戸弘行選手(サンセットヒルズC)が連覇を狙った崎山俊紀(今治C)と73ストロークでホールアウトしましたが、マッチングスコア方式により見事初優勝を飾りました。

《ミッドシニア》 6,259yd Par72

POS	PLAYER	CLUB	TOT	0	1
優勝	城戸 弘行	サンセットHC	73	38	35
2位	崎山 俊紀	今治C	73	35	38
3位	近藤 克久	レオマ高原G	74	38	36
	越智 勇次	西条G	74	36	38
	久保田剛司	満濃ヒルズC	74	35	39
6位	羽藤 悟志	新伊予G	75	37	38
	松山 慶三	高知G	75	35	40
8位	筒井 清道	屋島C	76	37	39
	内田 佳二	新琴南G	76	37	39
10位	豊田 雄一	土佐ユートピアC	77	41	36
	宮野 恵史	松山シーサイドC	77	39	38



ミッドシニア 優勝  
城戸 弘行選手

## 第27回四国グランドシニアゴルフ選手権競技

### 白岩 敬選手(宇和島C)が初優勝

新居浜カントリー倶楽部〈9/2・3〉

第27回四国グランドシニアゴルフ選手権競技が9月2・3日に新居浜カントリー倶楽部において、ミッドシニアと同様一日競技で70歳以上のグランドシニア117名が参加し開催されました。

白岩 敬選手(宇和島C)が3バーディー・2ボギーの71ストローク、出場選手の中で唯一人アンダーをマークし、見事初栄冠を手に入れました。

《グランドシニア》 5,852yd Par72

POS	PLAYER	CLUB	TOT	0	1
優勝	白岩 敬	宇和島C	71	35	36
2位	唐津 正二	高松C	73	38	35
3位	福本 好行	愛媛G	74	37	37
	川村 竹志	錦山C	74	36	38
5位	松田 茂	松山ロイヤルG	75	38	37
	弓達 秀待	久万C	75	37	38
	石原 真人	高原G	75	37	38
	石元 稔	錦山C	75	37	38
9位	近藤協一郎	レオマ高原G	76	39	37
	唐木 信也	高松C	76	39	37
	戒能 導	松山国際G	76	39	37
	山口 義昭	御所C	76	38	38
	佐伯 有信	グリーンFG	76	37	39
	小澤 貢	今治C	76	37	39
	戸田 浩史	滝の宮C	76	36	40
	徳田登子夫	愛媛G	76	35	41



グランドシニア 優勝  
白岩 敬選手

## 第40回四国シニアゴルフ選手権競技

# 羽藤悟志選手(新伊予G)が3度目の制覇

徳島カントリー倶楽部〈9/23・24〉

第40回四国シニアゴルフ選手権競技が9月23・24日に徳島カントリー倶楽部で開催され、各県の予選を勝ち上がった130名が参加、混戦の中80位タイまでの選手が第2ラウンドに進出しました。初日4打差の16位タイでスタートした羽藤悟志選手(新伊予G)が2アンダーをマークし146ストロークで見事逆転し、3度目の栄冠を手に入れました。

《四国シニア》 6,639yd Par72

POS	PLAYER	CLUB	TOT	1R	2R	O	I
優勝	羽藤 悟志	新伊予G	146	76	70	34	36
2位	大西 晴来	エリエールG	148	78	70	36	34
	清水 護	屋島C	148	74	74	38	36
4位	谷渕 一幸	土佐山田G	149	74	75	39	36
5位	石井 一夫	愛媛G	150	75	75	38	37
6位	島内 武史	土佐C	151	74	77	40	37
	阿部 義弘	四国C	151	74	77	39	38
	井上 稔	チサンC北条	151	74	77	38	39
9位	上地 章久	土佐C	152	80	72	36	36
	高須賀幹由	道後G	152	77	75	39	36
	植松 吉行	久万C	152	75	77	41	36
	三好 猛	レオマ高原G	152	75	77	37	40



四国シニア 優勝  
羽藤 悟志選手

## COVID-19対策

連盟主催競技は新型コロナウイルス感染症のため多くの競技を中止していましたが、9月からのミッド・グランドシニア、シニア、ミッドアマ選手権競技を開催します。

競技開催にあたっては、開催倶楽部において万全の対策を講じているほか、連盟においても、参加選手からのチェックシートの提出や入場時の顔認証付き検温器による検温、受付時の除菌ウェットティッシュの配布、受付やアテストでのフェイスシールドグラスの着用などの対策を講じています。



チェックシート、  
ティッシュの配布



検温器



受付時・アテストのフェイスシールドグラス



\*顔認証付き検温器、フェイスシールドグラスはJGAからの寄贈

## わがコースの名物ホール その 23

### 讃岐カントリークラブ

#### 14番ホール PAR5

「真っ青な瀬戸内海を全ホールからパノラマで見渡せるコース」として昭和49年に開場しました。アウトコースは全体的にフラットでフェアウェイの幅は広く、距離も長いのでのびのびとプレーを満喫できる丘陵地コースです。一方、インコースは起伏があり、3か所の池越え、ドッグレッグホールなど変化に富んでおり、常にフェアウェイキープがスコアメイクのポイントとなります。



現在は開場当時の高麗芝とベント芝の2グリーンから、平均700㎡の大きなベント1グリーンへ、そしてフェアウェイのカート乗入れなど歩みとともに変貌を遂げてまいりました。

西には源平合戦の屋島、そびえ立つ五剣山、高松市街、東は淡路島と景観の美しい鳴門大橋など、さまざまな風景をホールごとに眺望として楽しめるのも特徴の一つです。

その中でもゴルフ雑誌に掲載されたこともある絶景のロケーションを誇る14番ホールを紹介したいと思います。眼下には醒め渡る青い海と瀬戸内海の島々を望み、正面の小豆島に向かって大胆かつ豪快なショットができるロングホールです。コース幅もあり一本木の右サイドが狙い目です。ティーショット次第では2オンも可能ですが、セカンド地点からは打ち下ろしのため左足下がりになります。グリーンの左側には池、右には脱出困難な深いバンカーが待ち受けております。時には海風も影響するため、思い切って2オンを狙うか、堅実に3オンを狙うかが勝負の決め手となり難関かつ醍醐味あるホールと言えるでしょう。

## わがコースの名物ホール その 24

### パシフィックゴルフクラブ

#### 5番ホール

#### PAR4 (BT394y FT357y)

当クラブは高知県中央部の南国市にあり、高知自動車道南国ICから約3分と抜群のアクセスを誇ります。

昭和49年11月に開場し、アウトコースでは南に目を注ぐと遥かに弧を描き広がる群青の水平線が望め、インコースに転じると四国山地の険しい山々に磨かれた清涼感のある森風を感じられる18ホールの丘陵コースです。コースはアップダウンが多いものの打ち上げは比較的少なく打ち下ろしのコースが多いレイアウトになっています。



今回紹介するアウトコース5番ホールはやや打ち下ろし、ほぼストレートのミドルホール。やや打ち下ろしのためティーイングエリアからグリーンまで一望でき、グリーン手前には池と大きな一本木があり景観もよいホールです。

ティーショットは一本木がスタイミーにならないよう基本的に左サイド狙い。セカンドショットはピンと一本木の位置により、高い球での木越えなど精度の高いショットが求められることもあります。場合によっては堅実にレイアップの選択もありかもしれません。

グリーンは全体的に受けグリーンですが、細かいマウンドや高麗グリーン特有の芝目のため、高度なライン読みが必要です。また、奥からのパッティングは順目の下り傾斜で速いためできるだけ手前から攻めたいところです。

# ギヤリー席

## 《リラックゼーション》

集中という言葉の反対にリラックスするという言葉があります。昔、ウォルター・ヘーゲンという偉大なプロがいました。色んな逸話の多い人です。その人の言葉に、『You are here only a short time. Don't hurry, don,t worry, and be sure to smell the flowers along the way.』

「ほんの暫くの間だけだ。あせるな、くよくよするな。そして途中の花の匂いを嗅ぐのだ。」という有名な言葉があります。彼は心理作戦の大家で、ホールマッチには決して負けなかったと言われています。有名な話に、ボビー・ジョーンズとの試合のとき随分と遅れて来て、しかも一番のティーショットではチョロをし、セカンドで寄せてバーディ

を取り、そんな事を繰り返し終に勝っています。

またある時には、大統領をティーランドに待たせて髭を剃っていた、そんな大変な逸話の持ち主です。遅れて来たと言えど、「私は決して急がない。それは、私が一番リラックゼーションの価値を知っているからだ。リラックスとは一番ティーでドライブするまで試合から心を離しておく事だ。私は時間を最も有効に使っているのだ。ゆっくり起床し、ゆっくり朝食を取り、ゆっくり身支度をしゆっくりコースに来る、それが私のリラックゼーションだ。また、集中は短い時間で長く続かないものだ。長く集中していると思っている人は単に緊張しているだけで、緊張していると集中は出来ないものだ。」思い当たる事がありますね。また、日本人には昔の剣豪宮本武蔵に似ていると思いませんか。

(手島皓一先生 遺稿)

## 〈事務局からのお知らせ〉

○本年は連盟設立40周年を迎えています。この節目の時を迎え記念事業を実施することは有意義であります。多くの連盟主催競技の中止を余儀なくされている状況において、3密要因となる記念事業の実施は難しいことから、記念小冊子の発行などの準備を進めています。

○新型コロナウイルス感染症が拡大する中、専務理事にご同行いただき、7月末から8月上旬に厳しい経営環境にある加盟クラブをお見舞いを兼ねて訪問をし、コロナ禍における取り組みや現状、課題など多くのお話を聞かせていただきました。今後、連盟のミッションである加盟クラブの発展に活かしていきたいと考えています。